

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<u>合計</u>	<u>30</u>

事業所番号	2371500915
法人名	万博メディカルケアサポート株式会社
事業所名	グループホーム やすらぎの里梅森坂
訪問調査日	平成20年10月24日
評価確定日	平成20年11月25日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	2371500915
法人名	万博メディカルケアサポート株式会社
事業所名	グループホーム やすらぎの里梅森坂
所在地	名古屋市名東区梅森坂一丁目537番地 (電話) 052-704-7700

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成20年11月25日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年12月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	22 人	常勤 12人, 非常勤 10人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	24,500 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	6名	要介護2	1名		
要介護3	6名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 85歳	最低	70歳	最高	93歳
協力医療機関名	医療法人中村クリニック				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは静かな新興住宅地の中にあり、隣の畑では入居者と職員が作物作りをしたり作柄を見に足を運んでいる。玄関には畑で収穫されたかぼちゃが飾られていた。広い庭では体操をしたり散歩をする入居者もいる。ベランダは広く食事会やお茶を楽しむ場所にもなっている。ホールや廊下には画家による癒し系の絵画がかけられ落ち着きを感じられた。アイロンかけや針仕事、畑の手入れ、植木の水やりなど入居者の持っている力が活かされており、それぞれに楽しみながら関わっている姿が見られた。職員は入居者の自由と安全を守り、その人らしさを尊重することを大切にし、日中玄関は施錠せず独り歩きする入居者には見守りながらそと後をついて行ったり、所在確認のGPSをつけてもらっている。入浴も就寝前に入ったり、家族と一緒に入ることもでき、希望に添った対応がされている。職員は何でも話し合いができ、意見は上に通る働きやすい雰囲気であることを誇りに思っており、看取りについて「大変だが関わってきた人にはできるだけ最期まで看たい」と入居者への思いを話された。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 地域の清掃活動や学区の祭りに参加したり、幼稚園児とのふれあいなど地域の人々との交流を行なっている。毎月の社内研修の中で「認知症ケア」について学んだが、次回より職員アンケートを実施し、希望の高い内容を選び研修を実施していきたいと考えている。また、地域密着型の理念、市町村との連携、運営推進会議の課題については、順次改善に向けて取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 項目一つひとつに向き合い、改めてケアを意識しながら自己評価に取り組んだ。新しい職員には自己評価について説明し、できる範囲で記入してもらっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 事業所の報告や評価、要望、意見交換が行なわれている。近場のグループホームもメンバーになっており意見交換もある。外部評価の報告もしているがまだそれに対する意見はあまり出ていない。次回から地域包括支援センターがメンバーになり出席する予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月ホーム便りで入居者の暮らしぶりを写真と共に伝えている。その中に入居者個別に、ある日のできごとや体調も記入している。来訪時に家族の意見や要望を聞いているが意見や苦情があった時は管理者に報告し職員皆で話し合い、善処に向け取り組んでいる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会にホーム便りを回覧し、ホームの様子や行事を紹介している。敬老会に参加したり、近場の施設の行事に参加し交流に努めている。買い物などの外出時に道行く人に挨拶をし顔を覚えてもらうようにしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしくゆったりとしたやすらぎのある生活」を理念としている。地域密着型の役割を果たす理念になっていないが入居者には住み慣れた地域でその人らしく生活できるよう支援している。地域密着型理念を検討課題とし、職員と協議してつくっていくことが大切と考えている。今はまず職員体制を整えてサービスを提供していくことが大切であり、ゆとりができれば理念の検討を予定している。		現在、理念を見直すゆとりがないが、職員体制が整い次第、地域密着型サービスの役割を考えたホーム独自の理念をつくられることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や事務室に掲示しており、新人職員の研修では理念を説明している。ミーティングで課題があがった時に理念に基づいて話し合っている。すべてのことに強制をせず、昼・夕食は皆で一緒にとるが朝食は時間に縛られないゆとりをつくっている。日々ゆったりとした生活ができるよう配慮している。ターミナルを目指し、終の棲家になるよう暖かいホームを志している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入っており清掃活動に入居者と一緒に参加している。祭りなど地域の行事に加わり交流がある。買い物など外出時には道行く人との挨拶を大切にし顔を覚えてもらっている。幼稚園からは歌や遊戯をしにきてくれ、畑の芋掘りにも参加し一緒に収穫を楽しんでいる。園児と入居者が楽しむ写真をお礼に送っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新しい職員には自己評価について説明しているが分かる範囲で記入してもらっている。評価結果は全体会議で報告して改善についてどういう取り組みが必要かを話し合っている。前回の評価から市町村との連携、職員を育てる取り組み介護計画の様式、地域密着としての取り組みなど会議で話し合い改善されたことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>事業所からの報告や評価、要望、意見交換が行なわれている。外部評価の報告も行っているがそれに対する意見は少ないのが現状である。メンバーは民生委員、ケアマネジャー、他のグループホーム長、家族、事業主代表、ホーム管理者、ケアサポーターなどである。次回から地域包括支援センターからの出席がある。</p>		<p>今後、地元自治会長にも参加を呼びかけたり、出席メンバー表の家族だけでなく全家族へも会の案内や報告をされ、運営推進会議への関心を持ってもらえるよう取組まれていくことに期待したい。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>定期的に行政を訪問する機会はあるが、積極的にホームから情報提供するには至っていない。市とは信頼関係をつくり、サービスの向上に取り組んでいきたいと考えている。</p>		<p>市へパンフレットなどを渡し積極的にホームの情報提供をし、実態を共有しサービスの課題についても共に取り組めるよう関係づくりをされ、協働関係をつくられていくことが期待される。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ホーム便りで入居者の暮らしぶりを写真と共に伝えている。その中に入居者個別に、ある日のできごとや体調も記入している。“つばやきコーナー”では認知症の人のココロとカラダや体調を整えるケアなど本から抜粋したものを家族に伝えている。面会があった時はその都度報告しているが面会が少ない家族へは便りを通して連絡している。金銭管理は出納帳を確認して印をもらっている。何らかの変化や問題、相談ごとがあった時は電話で報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や苦情は多くないが時々ある。今回の家族アンケートからも家族の思いを知ることができた。意見が出た時はケアについての疑問も含め管理者に報告し、皆で話し合っている。善処にむけて取り組み成果を確認している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職について聞いてくる入居者には伝えているが他は混乱を避けるため、ほとんど報告していない。ダメージを防ぐためには継続ケアができるよう努めている。新しい職員は理念を理解してケアをするまでに時間がかかるのでベテラン職員が仲介して入居者への対応ができるよう指導している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度社内研修会を行なっている。担当者により「介護者の認知症ケア」の本から分野毎に順に学んだ。今後はアンケートをとりテーマを探りながら皆が順にレポーターとして係わっていくと一層学べると考えている。外部研修への積極的な参加を望んでいるが時間の都合で参加者は多くはない。参加者はレポートを書き皆に報告し共有している。パート職員からは時間的余裕から出席希望がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症グループホーム協議会の定例研修会や懇親会に出席し交流を図っている。名東介護事業所連絡協議会にも参加し、他ホームとの交流や情報交換をしてサービスの質の向上に努めている。これらで聞いた話を社内研修の折に皆に伝えている。近隣のグループホームと運営推進会議に参加し合い情報交換もしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心して納得して入居できるよう体験入居制度を設けている。居室が空いている時は1週間程宿泊体験してもらっている。居室が空いていない時は数時間ホームを見学し雰囲気を感じてもらっている。職員が自宅訪問し、家具の配置など住んでいる状況を掴み、本人が入居した際に混乱しないで生活ができるよう写真を撮り、職員が事前に理解できるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の喜怒哀楽を共感することがケアの第一と考えている。共感するには職員にゆとりが必要であり、不安を一人で抱え込まずチームでケアしていこうと話合っている。アイロンかけや雑巾縫いの役割をしてくれる入居者には感謝を伝えている。男性職員は入居者から料理や紐の結び方を教えてもらっている。関わりの中で感謝や労いの言葉ももらっている。職員の健康状態を気にしてくれることもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>自分の思いや意向を伝える人もいるが、把握が困難な人には職員がその人の表情や動きから察して思いに添うように努めている。本人が希望する生活に近づけるようミーティングで話し合っている。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりの生活状況や問題点を職員が気づき日常の申し送り日誌に記入している。月1回のミーティングで管理者、計画作成担当者、看護師、職員で意見を出し合い話し合っている。計画作成担当者が介護計画を作成している。家族に対しては入居者の現状その対応など説明して要望も聞いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は長期目標6カ月で短期見直し3カ月としている。月2回のケアカンファレンスで入居者の状況の変化が生じた時点で見直しを行なっている。家族の話を聞きながら介護計画の見直しの確認もしていただいている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>整形外科、眼科などの受診は家族の協力を得ながら支援している。時には介護タクシーも利用している。訪問マッサージの受け入れをしており、リハビリを兼ねたマッサージを希望者は週3回受けている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の内科医の往診は月2回実施されている。健康診断、インフルエンザの予防などは看護師が支援している。歯科医の往診は必要に応じて行なわれ、口腔内のケアもされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでは重度化した場合の対応に係わる指針があり、入居時に説明し同意をいただいている。ホームは「ターミナルケアを目指します」という理念に基づいてケアに取り組んでいる。管理者、医師、看護師、職員は重度化や終末期になった段階において気持ちを一つにして支援していく方針を共有し、対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に本人、家族から個人情報使用同意書に同意をもらっている。個人情報の記録は事務所に鍵をかけて保管している。記入する時も事務所内など入居者の目に触れない場所で行なっている。入居者の自尊心を傷つけないような言葉遣いに配慮し、食事介助やトイレ誘導などはゆっくりとさりげなく行われていた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事のメニューや外出など希望がある時は、その日に添えないこともあるがなるべく叶うように努めている。希望を伝えられない人には、その人らしく暮らしているのが表情に注目し声かけしながら、気づいたことに対応している。夜眠れない人には日中の様子を見て原因を探っている。日に何度も外へ出る人には何故なのかを職員が話し合い対応している。入居者の行動には必ず意味があると考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は入居者の好きな物を中心に料理担当職員が決めている。ホームの畑で採れる野菜、スーパーの買い物も入居者と一緒に出かけ旬の食材を選んでいる。男性職員の担当の時は入居者が料理をしたり、味見をしている。食後の後片付けは入居者と職員と一緒にこなしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の支援は担当職員を決め、午後12時～午後9時までとなっている。入居者は好きな時に入浴ができ、午後8時に利用される方もある。入浴を嫌がられる人でも面会にこられた家族と一緒に入浴することもできる。週に1回、風呂の消毒を行い休みの日としている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできること、好きなことを支援している。針仕事が好きな方がおり、雑巾縫いを行なってもらっている。畑仕事の得意な男性は、ホームの畑で野菜の手入れやホーム内の観葉植物などの水遣り、ランチョンマットにアイロンをかけるなど力を発揮している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の体操を外庭でしたり散歩にはできるだけ毎日にかけている。花見、紅葉見物や水族館など遠出することもある。今年の夏は海のクルージングにも出かけた。散歩の途中に喫茶店へよったり、時には外食も入居者の楽しみとなっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中に玄関を施錠せず開放的なホームであるように努めるという思いから、外へ出かける入居者には所在確認のGPSを付けてもらっている。独り歩きをされる入居者に気づいた時は施錠するのではなく、後から見守りながら職員がついて行く。その人のできること、興味のあることに気持ちを变えるなど工夫している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回災害訓練を行っている。夜間の訓練を想定して行うこともある。入居者18名と職員との訓練報告を年1回消防署に出している。地域住民の参加は無い。災害時の備蓄品は防災頭巾が1階事務所に、食材は外の倉庫に備えている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が入居者の要望を入れながら決めている。糖尿病の方もるので、栄養バランスや量に注意している。水分補給量は1日1を目安にしている。入浴後にはスポーツドリンクをとってもらっている。いつでもお茶など水分がとれるようテーブルにポットを用意している。体重測定を週1回行い健康管理に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広く大きな窓からは緑豊かなホームの畑も見える。絵画が2～3箇所につけられ他に飾り物はなく観葉植物の鉢が置かれている。畳のスペースもあり落ち着いた空間となっている。訪問時に入居者がアイロンがけをされたり、雑巾縫いをされている姿が見られた。玄関には季節の柿が飾られていた。ベランダは広く時にはティータイムの場所として活用している。開所当初から飼われている猫は、入居者がかわいがっており、癒しになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の住んでいた自室の写真を撮っており、ホームの居室も写真を基に再現するなど工夫されている。馴染みの家具や時計、写真、人形などが置かれ居心地よく過ごせる居室になっている。電話を置いていつでも家族や友人と話をされる入居者もいる。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。